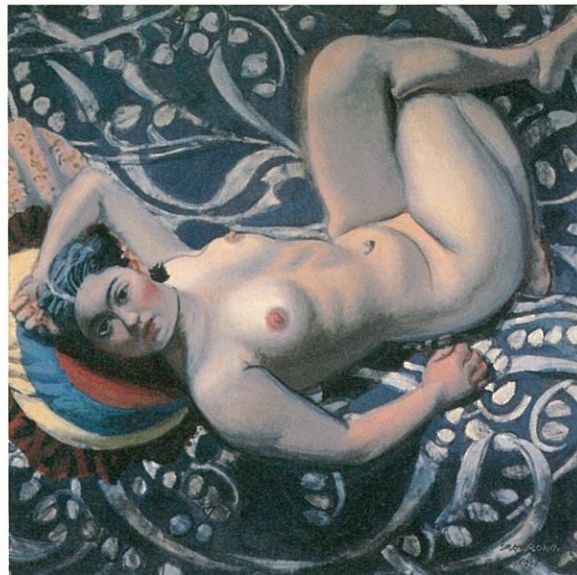


《不詳(婦人像)》カンヴァス・油彩、1922年



《青い数物》カンヴァス・油彩、1935年



《飢渴》カンヴァス・油彩、1943年



宮本三郎クロニクル

1922⇒1974 — 最初期作品から絶筆まで



《編み物》カンヴァス・油彩、1945-1948年頃



《腰かける裸婦》カンヴァス・油彩、1950年頃



《農夫》カンヴァス・油彩、1957年



《上野夜景》カンヴァス・油彩、1964年



《不詳(画室の裸婦)》カンヴァス・油彩、1967年頃



《假眠》カンヴァス・油彩、1974年

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836

www.miyamotosaburo-annex.jp/

交通案内=東急大井町線・東横線「自由が丘」駅 徒歩7分/

東急大井町線「九品仏」駅 徒歩8分/東急目黒線「奥沢」駅 徒歩8分

2012年8月7日[火]～12月2日[日]

開館時間=10:00～18:00(入館は17:30まで) 休館日=毎週月曜日(ただし、祝・休日と重なった場合は開館、翌日休館)

観覧料=一般200(160)円、大高生150(120)円、中小生100(80)円、65歳以上及び障害者の方100(80)円

* ()内は20名以上の団体料金。小・中学生は土、日、祝・休日及び夏休み期間は無料。

* 障害者で小・中・高・大学生、および障害者の介護者(当該障害者1名につき、1名に限る)は無料。

宮本三郎クロニクル1922⇒1974 — 最初期作品から絶筆まで

宮本三郎(1905-1974)の没後、長年連れ添った文枝夫人は、宮本が遺した次のような言葉を述懐しています。

「絵画は人間をかくことから次第に遠ざかってきている。文学はいまでも人間を書きつづけているんだ。人間との対決は絵画でも永遠なことだ」

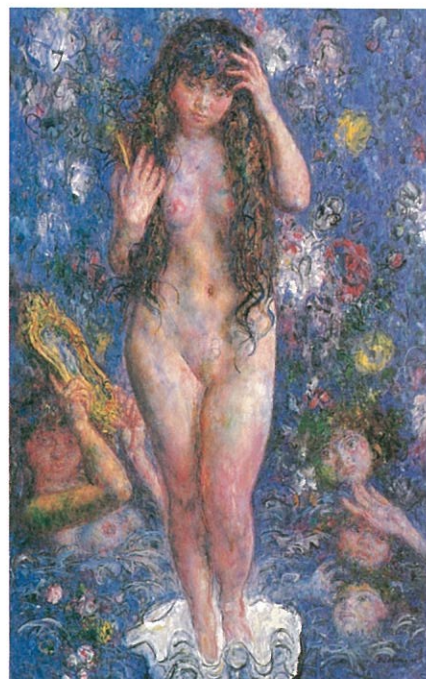
人間をかくことから次第に遠ざかってきている——。宮本のこの言葉の背景には、モチーフというより描き方、描く際の身体性を重視した戦後の抽象絵画の存在があったのでしょうか。あるいは、美術が次第に観念的になっていき、それ自体を否定、解体する方向へと向かったことに対する危惧があったかもしれません。古来より描かれ続けてきた人間が、絵画のアクチュアルなモチーフから消えようとしていることに対する違和感と反発。宮本の言葉からうかがえるのは、それでも人間を描くことに対する強い自負に違いありません。

石川県に生まれ、幼少時から絵が巧みで評判だった宮本が、画家を目指して上京したのは1922年のこと。以来1974年に東京で亡くなるまで、宮本は時代に翻弄されながらも、徹頭徹尾「人間」を最大の関心事として制作を重ねてきました。当館が所蔵する298点の油彩作品中、最初期の作品《不詳(婦人像)》(1922年)は、10代のころ、郷里で妹を描いたと考えられている作品です。一方、鮮烈な色彩で横たわる裸婦が描かれた絶筆の《假眠》(1974年)を見ると、宮本が晩年に至っても初期からのモチーフを推し進めていたことがわかります。その生涯における様々な画風の展開も、宮本が絵画における人間表現の可能性を一生のテーマとして追及していたからこそでしょう。

本展では、最初期の《不詳(婦人像)》から絶筆《假眠》まで、クロニクル＝年代記的に宮本三郎の1920年代から70年代の作品約40点を油彩中心にご紹介します。人間を描くことをやめなかった、宮本三郎の半世紀に及ぶ絵画の軌跡をぜひご覧ください。



1935年から1974年に亡くなるまで制作の拠点になったアトリエ。家族と、1935年頃



《ヴィーナスの靴い》カンヴァス・油彩、1971年



《白山遠望/小松風景》カンヴァス・油彩、1968年頃

イベント情報

夏のオープンワークショップ

「色とりどりの自画像」

「じぶんの顔に、みどりいろ!」。色彩が大きな特徴の抽象絵画を描く画家・高橋大輔さんと一緒に、「はだいろ」や「あか」、「くろ」だけではない、「じぶんのいろ」を発見して、「色とりどりの自画像」を描きましょう。

講師：高橋大輔(画家/1980年埼玉生まれ)

日時：2012年8月8日(水)～12日(日)

13:00～17:00(受付は16:30まで)

参加費：100円(1枚)

*事前のお申し込みやご用意は不要です。直接美術館にお越しください。

そのほか、宮本三郎記念美術館では、毎月1回のギャラリートークのほか、講演会やワークショップなど、さまざまなイベントを行っています。お気軽にお問い合わせください。

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836

www.miyamotosaburo-annex.jp/

交通＝東急大井町線・東横線「自由が丘」駅 徒歩7分／東急大井町線「九品仏」駅 徒歩8分／東急目黒線「奥沢」駅 徒歩8分



©宮本和義



世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園2-12

TEL:03-3415-6011(代)

ハローダイヤル 03-5777-8600

www.setagayaartmuseum.or.jp/

*詳細はホームページなどでご確認ください。

企画展

すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙 7月14日(土)～9月2日(日)

世田谷美術館コレクションによる現代美術展 対話する時間 9月15日(土)～11月11日(日)

生誕100年 松本竣介展 11月23日(金・祝)～2013年1月14日(月・祝)

ミュージアム コレクションⅡ

花森安治と「暮しの手帖」 6月30日(土)～9月2日(日)

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1

TEL:03-5450-9581 www.mukaijunkichi-annex.jp/

向井潤吉 語らいの時間

8月7日(火)～12月2日(日)



©宮本和義

世田谷美術館分館

清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17

TEL:03-3416-1202 www.kiyokawataiji-annex.jp/

清川泰次のアトリエⅡ

8月7日(火)～12月2日(日)



©宮本和義